

第5回 関西支部研修会

歯学(歯科医療・歯科医学)の実力と役割

講師：植木 弘之先生

可視化時代におけるデジタルソリューションの展開

講師：杉元 敬弘先生

日時：平成29年3月12日(日)

場所：京都テルサ



長谷川 徹 (京都府)

平成29年3月12日に京都テルサ(京都市)にて第5回日本インプラント臨床研究会関西支部研修会が開催されました。午前は「歯学(歯科医療・歯科医学)の実力と役割」の演題で植木 弘之先生(白水貿易株式会社 学術部次長)にご登壇いただきました。

講演は孫子の「勝兵先勝而後求戦、敗兵先戦而後求勝」から幕を開けました。疾病構造を理解・整理するために正常を理解・整理することが重要であり、これらは歯科における三大疾患であるう蝕、歯周病、不整咬合においても重要であることを説かれました。

午後からは杉元 敬弘先生(京都府ご開業)に「可視化時代におけるデジタルソリューションの展開」の

演題でご講演していただきました。

聴講者が研修歯科医師から臨床経験豊富な歯科医師まで幅広い中、咬合の基礎的な内容から最新のデジタルソリューションまで聴講者全員が聞き入る講演内容でした。

なかでも、CT画像などを用い左右顎関節の骨-関節隙を診断することで、治療前の口腔内の状態に左右されることなく将来の治療顎位の予測を可能にし、その上下顎間関係においてインプラントの埋入位置や矯正後の歯列の予想を行われていました。

午前、午後とも活発な質疑応答が行われ、盛会のまま閉会となりました。

